

# 私がみた坂の上の雲

## —第16弾—

### 新年号

新東京病院院長

心臓血管外科主任部長 中尾達也



新年明けましておめでとうございます。新心会の皆様、お元気でしょうか？ 今回は年末12月29日まで手術をして12月30日に広島に帰省、翌31日に松戸に帰ってきました。正月を迎えるが今回初めて新東京病院に来て16回目の正月を迎えましたが、年末年始は世間的には長期の休みを堪能しているところでしたが、病院の方はインフルエンザと一部コロナの発熱患者を含めた多くの救急車を応需してくださり救急の看護婦さんや当直医には感謝、感謝です。1月2日には重症心不全患者の手術をして、夕方にICUから駐車場をみるとボタン雪が降つておりこの冬初めての東京の雪は幻想的でした。そんなんかなで1月3日の夜遅くに、院長室で原稿を書いている心臓血管外科主任部長、院長の中尾達也です。昨年は、新心会総会や主催旅行で皆様と時間を一緒に過ごす機会が院長職のため少なく大変申し訳なく思っています。新心会総会では、循環器内科主任部長の朴澤先生が循環器疾患の講演をしてください心臓外科とのハートチーム連携の大切さを強調され

ていました。さて、2026年新東京病院は57周年を迎え、私もここ松戸の新東京病院の地に来て17年になります。そして新東京病院院長になりました。なんとか2年半が経ちました。心臓血管外科ですが、池谷先生が昨年12月に退職されました。新たに今年1月から湘南鎌倉総合病院心臓血管外科から野口先生と山部先生に来ていただきました。お二人とも前病院に13年近く勤務されておりましたが私の目指す医療に賛同されチームの一員になつていただきました。この4月には浜松の方からも京大出身の坂本先生がチームに加わつていただきます。津田先生、星野先生らも含め皆で力を合わせて頑張つていきます。

2024年度の実績を報告致します。昨年1年間の開心術が272例、胸部大動脈ステントグラフト34例で心臓胸部大血管手術総数は306例でした（1年前が303例）。全体的に総数は維持しています。低侵襲手術の柱として腹部大動脈ステントグラフト（50例）、胸部大動脈ステントグラフト（34例）、MICS（完全内視鏡下右



写真①

努めてまいりました。このことがきっかけで AME Case reports (ACR) というオンライン国際雑誌の編集委員を務めています。2024年5月にタイバンコクで開催された第2回世界心臓、循環器系疾患会議をきっかけにタイバーンコクの3大心臓血管センター（Siriraj 病院、Army 病院、Chest Institute 病院）の心臓外科医たちとタイでの本法導入に向けての協力体制をつくることが出来ました。昨年5月には、サウジアラビアのドバイで開催された第3回世界心臓、循環器系疾患会議での基調講演をきっかけに知り合ったアメリカグラウン大学の心臓血管外科研究部門ルーフル教授にクリスマスイブに当院に来ていただき、合同心臓セミナーを催し「虚血性心疾患に対する幹細胞由来の革新的治療法」という題目で講演をしていただきました（写真①）。時間が許す限り、ルーフル教授が決まった台湾での普及に、台湾の台北や台中の病院まで技術指導に足を運び、アジア心臓胸部外科学会やイタリアでの研究会等大きな場所での講演に積極的に

フル教授を私が病院中を案内させていただきました。早くれば来年からブラウン大学と新東京病院の間で、臨床や研究で相互協力できる体制を構築して若い先生や学生たちの交流を図りたいと考えています。

の院長になりました。院長になつていろいろな人たちと知り合い、その人たちから教えを請い毎日勉強をさしていただきしております。先日、松戸市の松戸新市長とも医療について意見交換をさせていただき

す。一方柏癌センター呼吸器外科や築地中央癌センター食道外科と共同しての、心臓や頸部血管、大血管にまで浸潤した肺癌、縦隔腫瘍ならびに食道癌を手術、治療することも引き続き積極的に行い複数科での相互協力体制をより信頼できる強固なものにしていきます。さらに、千葉県内でエホバの証人の心臓病患者に対して心臓手術を提供できる唯一の施設としての役割も引き継ぎ務めるとともに2014年3月ま

る10年間の心臓血管手術50例の成績をまとめ、昨年10月に第78回胸部外科学会で発表して英文誌に投稿しています。今後全国でのエホバ患者治療の指針として少しでも役立つてくれることを願つていま  
す。

かという本質は共通していると感じて いるのです。さて、昨年末には浅草 View ホテルで新東京病院忘年会を一番大きな会場ですることが出来ました（写真②）。会費なしの病院全てのスタッフへの慰労会です。大変なこの一年間を皆様よく頑張つてくれました、日頃顔を合わせたり話や挨拶もままならない同じ新東



写直③



写直②

が出来たこの御縁が、遠く離れていても世界中のどこかでこれからも繋がっています。彼女の生い立ちをお母さんからお聞きして、結衣さんもちろん凄いのですがお母さんの幼少期からの教育の素晴らしさを改めて知ることとなりもつと大変な感謝と感動をいたしました。昨年はスリランカにカンボジア2ヶ国も新しい地を訪れ8年ぶりの年間チャンピオンも達成、今年はウインブルドン優勝でゴールドスマッシュという目標を語る結果さん生き方は、昔大学からテニスを始め今も週一テニスプレイヤーである私にとつてテニスをこれからも続けていく上での大きなモチベーションを与えてくれているのです。

ドスマラムという目標を語る結果さん生き方は、昔大学からテニスを始め今も週一テニスプレイヤーである私にとつてテニスをこれからも続けていく上で大きなセチベーションを与えてくれているのです。



写真①

応し native speaker 並みの英会話を披露してくれました。日本人の遺伝子を持つ上地結衣さんや孫たちも素晴らしい次世代、次々世代を紡いでいるてくれています。

人の御縁は不思議ですね。

患者さんが外来で、「先生に手術してもらつてもう10年も長生きさせてもらつた。もうけもんだよ、ありがとう」と言つてくれます。患者さんにとつては、そのような気持ちでいることが毎日を生きていく大きな力になつてているのでしょうか。私自身どんなに苦境に会つても、患者さんのそこの言葉で私も生かされていると感じます。ロイヤルアルフレッド病院の心臓胸部外科オフィスの壁には、過去世界のいろんな国からやってきてカリキュラムを卒業できた修練医の肖像画（写真）が飾つてありました。私の肖像画が私をみて意味深に微笑んでいました。「タツヤ よく帰つてきたね」と（[写真⑤](#)）。

